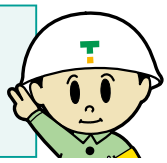
検査員の現場報告2



キュービクル通気口の腐食穴からヘビ

米沢事業所 竹田 弘幸

キュービクル上部の通気口が腐食して開いた穴からヘビが侵入し停電事故に至った事例を紹介します。

〔状況〕

５月連休の夕方に、電気事故受付センターより「お客さまから工場が全て停電しているので対応してほしい」との連絡を受けました。高圧設備が原因の停電と判断し、必要な機材を準備のうえ２名で現場へ向かいました。

〔調査〕

現場到着後、お客さまに状況を確認したところ「突然電気が使えなくなった」とのことでした。設備の状況を確認したところ、柱上の高圧気中開閉器（ＰＡＳ）が開放状態であり、地絡継電器（ＧＲ）が動作していたことから、高圧設備の異常が疑われたため、外観点検を開始しました。

第一キュービクルには異常がありませんでしたが、第二キュービクルの外観点検を行ったところ、床面にヘビを確認しました。取り除こうとしたところ、まだ生きており対応に苦慮しましたが、最終的に安全に除去できました。

〔原因〕

キュービクル上部の通気口が腐食して穴が開き、その隙間からヘビが侵入し高圧側の充電部に触れて地絡（漏電）したことが原因と判明しました。また、通気口以外に外部からの侵入可能な開口部がないかも確認しましたが、異常は認められませんでした。

〔復旧〕

応急処置として、穴が開いたキュービクルの通気口は、ウエスで隙間をふさぎ、養生テープで仮補修を実施しました。その他の設備全体に異常がないことを確認し、復旧しました。

〔お客さまの声〕

事故原因を説明した際、お客さまは「まさかキュービクルの上部からヘビが入ってくるとは思わなかった」と大変驚かれていました。また、「突然電気が止まり、何が起きたのか分からず非常に不安だった。連絡後すぐに駆けつけて対応してもらえたことで安心しました」と感謝のお言葉をいただきました。

〔まとめ〕

屋外設置のキュービクルは、設置環境や経年劣化により腐食が進行し、今回のように通気口に穴が開くことがあります。こうした隙間は、ヘビをはじめとする小動物の侵入口となります。日常の外観点検において様子を確認させていただきますが、お客さまにおかれましても、突発的な停電事故を未然に防ぐため計画的な設備改修・更新のご検討をお願いいたします。

腐食して穴が開いた第二キュービクル上部の通気口からヘビが侵入

第二キュービクル床面にいたヘビ